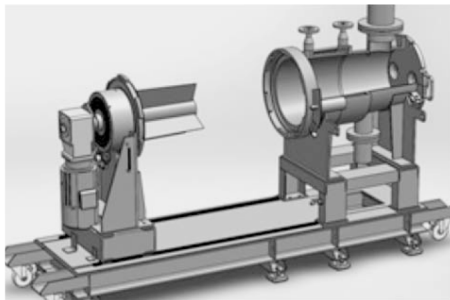


日立プラントメカニクス

清掃しやすい蒸発器

装置の分解、5分程度に

日立プラントメカニクス（山口県下松市、橋本直人社長、0833・41・3080）は医薬品・食品業界向けに、清掃しやすい構造にした「遠心薄膜蒸発器」を月内に発売する。溶液を効率的に蒸発させて濃縮する装置。清掃時の装置分解時間を従来の2〜3日から5分程度に短縮した。日常的な清掃が可能になる。価格は見積もりに応じ、1000万円〜3000万円程度を見込む。



遠心薄膜蒸発器は容器内で攪拌翼を高速で回転させることで溶液を遠心力で飛ばし、容器内の胴体で薄膜を形成。その胴体は薄皮を形成し、素早く均一に蒸発させる。成分を濃縮する工程で用いる。これまで同社は石

分解した状態の遠心薄膜蒸発器（イメージ）
油化学プラント向けに販売してきた。今回の新型機種は攪拌翼の軸を片側のみで支える構造にし、翼と軸受、モーター、ふたの四つの部品を一体化した。一体化した軸部分をスライドするだけで容器を開封でき、内部を容易に清掃できる。医薬品・食品業界では多品種少量生産を行う企業が多く、

容器内を素早く清掃する必要がある。同社は簡単に分解・組み立てが行える点を訴求し販売する。濃縮倍率は最大100倍で、濃縮効率が非常に高い。ジュースの濃縮液やトマトピューレなど粘度の高い溶液でも処理できる。伝熱面積が0.5〜3平方メートルの機種を用意した。国内外に販売し、初年度に1億円の売り上げを目指す。同社が提供する遠心薄膜蒸発器の顧客層の内訳は、約2割が医薬品・食品業界向け。日常的に清掃できる製品を開発したことから、将来は「医薬品・食品業界向けを5割程度まで引き上げたい」（営業本部）としている。